

令和2年度 授業改善プラン 全体計画

松仙小学校

学校の教育目標

- ★じょうぶな子ども
- よく考える子ども
- 思いやりのある子ども

学校経営方針（抜粋） ～授業改善との関連～

- 確かな学力の定着
- 主体的・対話的で深い学びの追求
- 具体物及びICT等の教育機器の活用

○各教科

- ・児童の知的好奇心を満足させる楽しい授業・分かる授業・質の高い授業作りを目指し、指導法の工夫・改善に努め、児童の基礎学力の定着を図る。
- ・体力、健康に関する意識の向上を図る。
- ・オリ・パラ教育の実践に取り組む

○総合的な学習の時間

- ・横断的・総合的な学習を通して、唯一解のない問題を探究的・協働的に解決する資質能力を育成する。
- ・これからの社会を共に生きる上での自己の生き方を考えさせる。

○進路指導

- ・道徳や学活の時間を通して、進学先の学校での活躍や将来への希望等期待感をもてるようにする。適宜キャリアパスポートを活用する。

○道徳

- ・教科書や実際の出来事、説話を通して、自他の存在を尊重し、相手を思いやる心情と態度を養い、道徳的実践力の育成を図る。
- ・生命を尊重する教育を推進する。

○特別活動

- ・集団活動への参加を通して、児童が自発的に活動する力を育てるとともに、集団の一員としての自覚を高め、協力してよりよい生活を送ろうとする態度を培う。

○生活指導

- ・校長講話のふり返りや生活目標との関連づけ等意図的継続的な指導を通して、よりよい生活をするために必要な規範意識の向上を図り、基本的な生活習慣の確立をめざす。
- ・交通安全教室、セーフティー教室等の安全指導だけでなく、必要に応じて関係機関と連携して指導し、児童が自らの身を守る力を育てる。

<授業改善>

○学習指導の工夫・改善

- ・新型コロナウイルス感染症防止のため、3密を避ける授業展開の工夫、授業前後の手洗いを徹底させる。
- ・各教科の学習の決まり、基本事項（松仙スタンダード）を全児童に徹底し、学習規律が身につくようにする。
- ・一時間一時間の学習のめあて・学習の流れを提示し、振り返りを行う。
- ・算数では習熟度別授業を実施し、各コースに応じた指導の工夫を積極的に行い、個々の学習進度に合った授業を実施する。
- ・体育では学習カードを効果的に活用したり、場の設定を工夫したり、学習の流れを明示したりするなどして、学習の充実を図る。
- ・外国語活動では、研修や授業研究を活かした専科教員による授業を実施する。
- ・具体物及びICT等の教育機器の活用し、児童の学習に対する興味や関心を高める。
- ・支援を必要とする児童に対し、学習の流れを明示して見通しをもたせたり具体物を活用するなど指導の工夫をしたりする。

○教育課程編成上の工夫

- ・児童の健康観察を確実に実施するために、朝会ではなく昼会を実施する。
- ・登校時、手洗いと健康観察をするための時間を設定し、確実に取り組む。
- ・45分の授業時間を確保するために、集会や昼会を時間内に実施する。特に、放送による昼会を実施することで移動にかかる時間を短縮する。
- ・図書の日や10月実施予定の本校独自の読書活動を活用し、読書への関心の向上及び読書習慣の形成を図る。

○校内における研究や研修の工夫

- ・今年度から体育科を研究教科とし、研究主題「楽しい授業の創造～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～」を設定し、その達成に向けて外部講師を招き研修を深め、授業力の向上を図る。
- ・教材や学習カードの工夫、環境整備や年間指導計画の見直しなどに取り組み、体育科の学習を進めていく環境を整え、研究の視点である主体的・対話的で深い学びの実現に向けて実践していく。

○家庭や地域社会との連携の工夫

- ・地域教育連絡協議会や保護者へのアンケートによる外部評価の内容を真摯に受け止め、授業改善の視点としたり、次年度の教育課程に反映させたりする。
- ・サポート松仙との連携を深め、地域の教育力を生かした多様な教育（学習）活動を実践していく。

○生活科、理科の授業改善を図る。

- ・体験的な学習や繰り返し（継続的）学習の充実を図る。学年に応じて見通しをもった観察、実験を行い、問題解決の能力を育てる。
- ・実験の結果を整理させたりするため、思考ツールを使い生活科における個々の発見や疑問、理科の見方・考え方を可視化する。